

今年的全日本ウェイト制大会、横浜北支部から初の決勝進出が出た。



軽量級 準優勝  
相澤和政



今まで何度もベスト8まで進みながら入賞を逃していた相澤が  
今大会では、一気に決勝の舞台まで駆け上がった。

相澤はその実力が認められながらも、ここ一番というところで力を発揮できなかった。

名前のある選手との対戦や入賞の懸かった試合になると気負いすぎてしまう癖があったからだ。

今までと同じ稽古では壁は破れない。



壁を破る為に相澤が出した答えは、他支部への出稽古だった。

「名前のある選手と手合わせをしておけば、試合でも実力を発揮できるはず。」

相澤は毎週の休日を、全日本トップクラス選手を擁する支部への出稽古にあてた。

恐怖と緊張に満ちた出稽古での相手は相澤のメンタルを劇的に変化させる。

大会当日。



2回戦で対戦したのは若手有望株の谷川選手。

今までの相澤なら相手の速い動きに慌ててしまっていたかもしれないが、今回は落ち着いた戦いぶりで判定勝ちを収める。

難敵を突破した相澤は勢いに乗り、一気に決勝まで駆け上がった。

決勝の相手は優勝候補の最有力、総本部の澤村選手。

初の決勝、相手は優勝候補。  
相澤の緊張は最高潮に達していた。



ファンファーレが鳴り、決勝戦の舞台にあがる両選手。



試合が始まるまで自分のペースで動いていた相澤だったが、  
試合終盤に澤村選手の猛攻に主導権を奪われ判定負け。  
経験の差を見せ付けられた結果となった。

支部初の入賞にも関わらず実力を出し切れなかったことで落ち込む相澤だったが、  
次は必ず実力を出し切ることができるだろう。

もう決勝の舞台を経験したのだから。

